

島原市版情報提供・共有シート活用の手引き

はじめに

高齢者人口が増加する中、多くの住民は自宅など住み慣れた地域での生活を望んでおられます。そのため地域包括ケアシステムの構築が急がれており、特に医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者を地域で支えるためには在宅医療・介護連携の推進が重要となります。

医療と介護を必要とする住民が最後まで自分らしく、安心して暮らし続けることができる社会の実現のために、地域包括ケアシステム構築の一環として医療機関と在宅支援者の情報共有をスムーズにし円滑な在宅等への移行を図ることを目的に『島原市情報提供・共有シート（Aシート・Bシート）、ものわずれ連携シート（Cシート）』を作成しました。

【シートの活用について】

- ・介護保険サービス等を利用している人が入院した時（Aシート）。
- ・介護保険サービス等を利用するに当たり、医療機関より情報提供（診療情報提供書）が必要な時（Aシート）。
- ・病院担当者が「退院連携が必要である」と判断した時（Bシート）。
- ・認知症が疑われる方の相談を受け、かかりつけ医や専門医、認知症疾患医療センター等に相談する時（Cシート）。

【情報提供・共有シートの活用フロー図】

